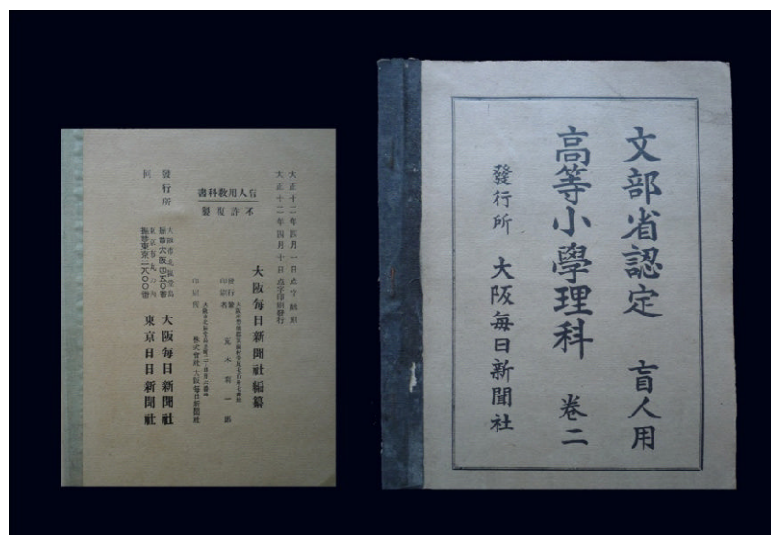


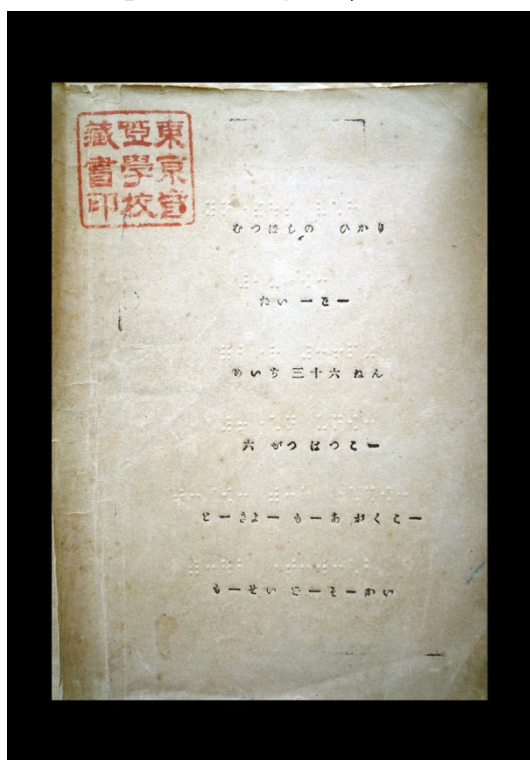
3 3. 文部省認定 盲人用高等小學理科



大正 1 2 年に大阪毎日新聞社が盲人用の教科書を発行している。点字の出版に関して大阪毎日新聞社が尽力していたことがよくわかる。

＜筑波大学附属視覚支援学校蔵＞

3 4. むつほしのひかり

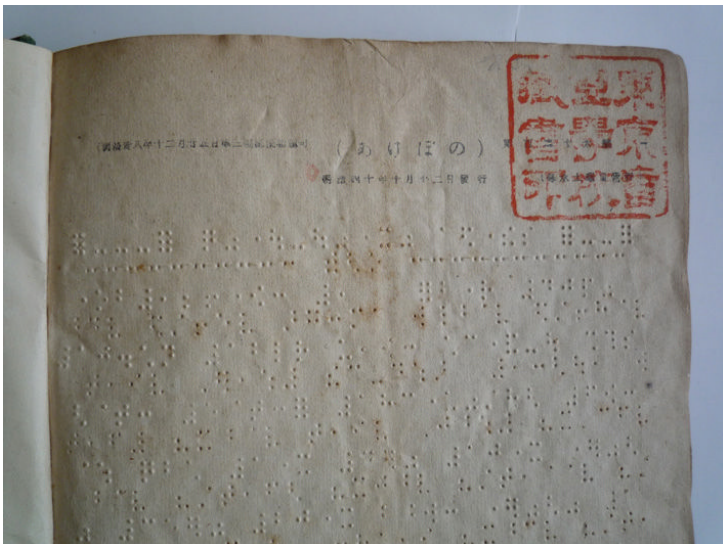


日本での点字が考案され, 盲人たちは文字を使える喜びにふるえた。次々と点字による雑誌が発行されたことにその盛り上がりがあらわれている。

明治 3 6 年 6 月東京盲啞学校初版発行

＜筑波大学附属視覚特別支援学校蔵＞

35. あけぼの



「むつほしのひかり」に続いて発行された点字雑誌。明治40年発行。

＜筑波大学附属視覚特別支援学校蔵＞

36. 点字毎日



中村京太郎は大正11年に大阪毎日新聞社が週刊誌「点字大阪毎日」を発刊するに当たりその編集主任となる。盲学校用教科書を出版するなど、盲人の資質向上に尽くした功績は大きい。日本点字の母、日本盲人の父と称される。大正11年5月に創刊号を発行して以来のバックナンバーは筑波大学附属視覚特別支援学校に保存される。

＜筑波大学附属視覚特別支援学校蔵＞

37. 亜鉛板点訳機



2枚重ねの亜鉛版に、手指と足で点字を打つ。そうやってできた版に紙をはさみプレスすることで、教科書や雑誌など大量の点訳が可能になった。

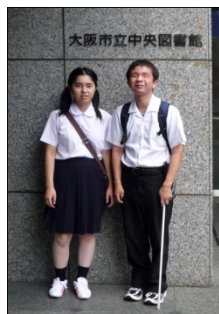
・・・この機械の長所・・・

- ①製版が簡単で短時間でできる。
- ②亜鉛板を保存できるから再版がきく。
- ③頁数の多いものの印刷に便利。

＜筑波大学附属視覚特別支援学校蔵＞

＜徳島県立盲学校蔵＞

38. 大阪市立中央図書館訪問



本校生は、平成20年の夏に大阪市立中央図書館を訪問した。ここではさわる絵本の会「つみき」が毎月1回活動している。
大阪市立中央図書館にて

39. 「いか」の製作中



さわる絵本を作るときに、布をはじめとする素材選びは重要である。同じページの色の布でも肌触りが違う物を普段からできるだけ多くストックしておき、その中からぴったりのものを探す。これは、いかの足を作っているところ。
大阪市立中央図書館内の研修室で

40. 「読める文字書ける文字を探した長い旅」



7月に、京都府立盲学校の岸博実（ひろみ）先生に点字の歴史についての出前授業をして頂いた。こより文字・テープ文字・蠟板（ろうばん）文字・結び文字・かわら文字などのレプリカを見せていただき、明治10年代の盲学校の様子がよくわかった。
徳島県立盲学校大会議室

「点字」の歴史の旅はいかがでしたか。

平成21年（2009）は、「ルイ・ブライユ」生誕200年、「石川倉次」生誕150年にあたります。私たちは多くの先達の情熱と意志により点字文化が創られてきたことに感謝し、今後も点字文化を継承、発展させていきたいと思ひます。